



『国東市の学校給食について』

学校給食は、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供し、健康の増進、体格の向上を図ることはもちろんのこと、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、好ましい人間関係を育てるなど教育的役割も担っています。

国東市には3つの給食調理場(国見・国東・安岐)がありますが、おいしい給食であることはもちろんのこと、安心して食べられる安全な給食を目指しています。そのために毎年、調理従事者を中心に研修会に積極的に参加しています。

今年の大分県学校給食調理従事者衛生管理研修会は、8月1日に県



庁で開催され各調理場から6名が参加し、衛生管理の講話やグループ協議を行い、知識を深めました。「くさきき地区学校給食調理従事者研修会」は、8月26日に大分市にある大分県学校給食会で開催され、31名が参加しました。学校給食調理教室では、「給食おすすりメニュー」不足しがちな栄養をとろう」という献立に取り組み、その後、衛生講話を聞き、最後に県下に配達する食材を保管する大きな倉庫や冷蔵庫など施設見学を行いました。

その他にも、国東市・姫島村・杵築市・日出町の学校給食関係者が集まって「速見杵築・くさきき地区学校

給食衛生管理研究会」を、10月25日に日出町学校給食センターで実施しました。研究会には国東市から8名が参加し、給食を作る全工程を見学し衛生面について点検を行いました。

また、食育や地産地消にも力を入れており、道の駅など地元業者の新鮮な野菜など使っています。

「給食だより」はもちろん、毎年「食育の日」・「まるごと大分県」・「学校給食週間」・「もったいないデー」を設けて、地産地消や郷土料理等の献立で給食を提供しています。今年もは地域の方に学校給食を知ってもらおうと、「地域ふれあい学校給食試食会」で希望者には給食を食べられるように取り組んでいます。

給食センターとしては、学校給食を通じて子ども達の健全な心身の



成長を支えていくために、これからも様々な取り組みを行っていきまので、今後もご理解とご協力をお願いいたします。

問合せ先 給食センター ☎0978-72-1599

テーマ

「戦後の部落解放、オール・ロマンス事件、行政闘争へ」

昭和20年8月15日、日本は敗戦し、戦争は終わりました。その後、思想や団体をつくることを押さえつけてきた治安維持法は廃止され、政党の活動も労働運動も自由で活発となりました。また、全国水平社の活動をすすめてきた人たちは昭和21年2月、部落解放全国委員会を結成し、民衆の政府をつくることで部落解放を実現しようと活動を始めました。

昭和21年11月3日には新しい憲法(「日本国憲法」)が公布されました。新憲法は、戦争放棄(平和)・国民主権・基本的人権の尊重を三つの柱として、平和で自由平等な民衆の社会をつくることを目指しています。

新憲法では、基本的人権を大切にし、すべての人々が平等で差別されない人権尊重が謳われましたが、同和問題は解決されることなく残ったままでした。

そのような中であって京都市で起こった「オール・ロマンス」事件は、部落差別に対する行政の責任を明らかにしました。

昭和26年10月に、当時桃色雑誌あるいはカストリ雑誌などといわれた月刊誌「オール・ロマンス」に、京都市九条保健所のある職員が「特殊部落」という題名の小説原稿を寄稿し、それが掲載されました。その内容は京都市の東七条部落を舞台にしたもので、部落を犯罪と暴力とヤミ取引と売春の巢窟のように、地域の実態をゆ

がめて興味本位に描いたものです。部落解放委員会京都府連合会(以下、京都府連)の糾弾に対し、京都市長は、差別の責任を小説作者の職員の個人の問題として、その職員を辞めさせることで事件を処理しようとした。これに対し京都府連は、作者や出版社を糾弾することに重点を置くのではなく、市の行政が部落の劣悪な状況を、部落なるがゆえに当然として放置しておくことが、部落差別を温存してきた理由であり、この根本的態度を改めない限り差別はなくならないことを指摘しました。すなわち、小説がその対象として描写している部落の劣悪な生活実態こそ、部落民に対する差別観念を助長拡大するものであり、また、その状況を改善しようとする京都市行政の停滞は差別助長の大きな原因であることとを問題にしたのです。糾弾の席上で、市の土木・保健衛生・民生・教育・住宅・経済などの担当の局長や責任者に対し、「担当部門での行政の欠陥のあるところはどこかと質問し、問題箇所を京都市の地図に印を打つていったところ、行政の停滞が部落に集中していることがひと目で明らかになりました。

この交渉を通じて京都府連は、京都市行政の差別性、停滞性を打破し、同和問題を解決するための具体的政策を添えた請願書を市議会に提出しました。このことを契機に京都市で

は同和对策の総合計画の策定をはじめ、同和行政推進のための積極的施策を行うことになりました。

オール・ロマンス事件は、各地方の自治体における同様の行政闘争の端緒となり、戦後における地方公共団体の同和行政の取り組みを推進させるものとなりました。

(文責：国見分室 有定)

引用図書

- ①「同和問題一問一答集」(大分県同和对策室 大分県教育委員会発行)
- ②「日本民衆と部落の歴史」(久保井 規夫著 明石書店)

●第10回国東市隣保館まつり

「こころの川柳」課題まつり《応募作品

夜まつりの

打ち上げ花火空照らす

武蔵町 安永 トシ子

ケチンボも

気前よくつぐ祭り酒

国東町 平永 光